

市政の動き

簡保レクセンター跡地利用について

(西鉄天神大牟田線「三国が丘駅」西側約 28ha の敷地)

～公的利用ゾーン、民間利用ゾーン、史跡ゾーンに分けて活用～



▲簡保レクセンター跡地 (全景)

簡保レクセンター跡地利用について

市民の憩いの場として親しまれ、本市に残る数少ない緑地でもある県有地の簡保レクセンター跡地につきましては平成12年の閉園以降、その活用について検討が重ねられてきました。

この跡地につきましては、福岡県に設置された簡保レクセンター跡地利用検討委員会が平成17年2月に出した「簡保レクセンター跡地利用の基本的方向性」の中で、「公的利用ゾーン」、「民間利用ゾーン」、「史跡ゾーン」の3つのゾーンに分けて活用することが決定されています。



▲簡保レクセンター跡地利用計画

公的利用ゾーン(約4ha)

現在、九州歴史資料館の建築工事が完了しており、平成22年秋以降に開館される予定です。

この九州歴史資料館は、九州全域を視野に、福岡県固有の歴史や伝統文化の調査・研究、保存、活用等を行う福岡県文化財保護行政の拠点施設となるものです。

実物資料の展示をはじめ歴史文化が体感できる展示や文化財に関する情報提供、講演講座、また、出土した遺物の整理、科学的調査研究、考古資料の保存修復等を行います。なお、九州歴史資料館の建設は、民間利用ゾーンの売却を、その財源とすることに なっています。

民間利用ゾーン(約13ha)

現在、県が設置した筑後小郡簡保レクセンター跡地民間利用ゾーン活用委員会において、「歴史と緑を活かしたまちづくり」をコンセプトに平成21年10月の売却先事業者選定に向けた協議がなされています。

史跡ゾーン(約11ha)

丘陵地一帯に残る史跡、自然の保護を主眼として整備される史跡公園が適当であるとして、遊歩道、休憩所等が設けられる予定です。

簡保レクセンター跡地利用に関する特別委員会

小郡市議会では、この跡地の有効活用について調査研究を行うため、平成12年9月、「簡保レクセンター跡地利用に関する特別委員会」を設置し、これまで「緑を守る」をコンセプトに、県に対する陳情活動等を行ってきており、九州歴史資料館の誘致等を実現しました。

現在、民間利用ゾーンについては、県の活用委員会ですて売却先事業者選定に向けた最終

協議がなされており、この委員会に副市長が参加していることから、平成21年3月24日市議会は、市長に対し、次の内容の申し入れ書を提出し、本委員会の調査を終了しました。

筑後小郡簡保レクセンター跡地利用に関する申し入れ書

小郡市議会の簡保レクセンター跡地利用に関する特別委員会において検討を重ねた結果、次のような結論に達しましたので、今後この筑後小郡簡保レクセンター跡地利用について県と協議されるときは十分配慮されるよう申し入れします。

- (民間利用ゾーンについて)
- 1、現存する緑を最大限活かしたまちづくりを行うこと。
 - 2、三国が丘駅から九州歴史資料館へのアクセス道路を確保すること。(史跡ゾーンについて)
 - 1、遊歩道の整備を早急に行うこと。